

【全体概要】

主食用米の需要が低迷する中、本県における水稻の作付品種はコシヒカリに偏重している一方、実需者からは業務用向け品種のニーズが高まっている。そこで本事業を活用し、業務用向け品種について、省力化及び多収技術を確立し、低コストでの生産を実現するための栽培手引きを作成する。

新品種・新技術等の概要

1 新品種

業務用向けニーズに合った品種として、多収性かつ食味に優れる品種の導入実証を行った。

【主な導入品種の特性】

品種名	早晩性	耐倒伏性	品種名	早晩性	耐倒伏性
ちほみのり	早生	強	あきだわら	晩生	やや強
つきあかり	早生	やや強	ゆきん子舞	早生	強

2 新技術

省力化又は低コスト技術として、以下の技術の導入実証を行った。

- ①全量基肥 ②流入施肥 ③可変施肥 ④低コスト資材
⑤密播育苗 ⑥露地プール育苗 ⑦ドローン防除

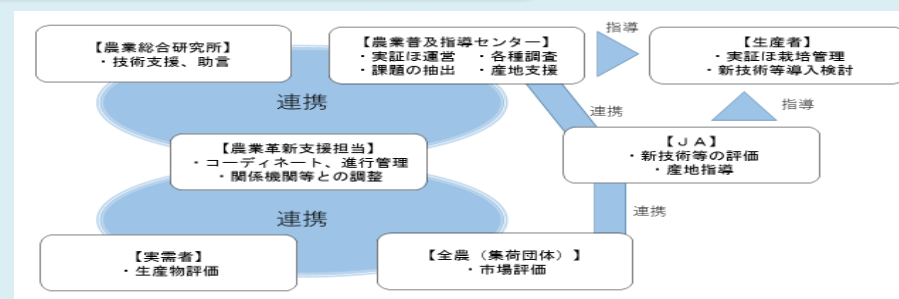
主な取組内容

- 品種・技術の特性把握
・県内25か所で低コスト・多収実証ほを設置
- 検討会、研修会の開催
・実証ほの現地巡回、成績検討会、栽培実践研修会を開催
- 産地・実需者の意向・ニーズ等調査
・首都圏実需者へのニーズ調査を実施
- 栽培・技術マニュアルの作成
・2か年の実証結果を踏まえた「多収性品種導入のすすめ」を作成



【マニュアルの作成】

実施体制図



課題と今後の対応

【課題】

- 多収性品種の栽培のポイントは、目標穂数の確保であるが、移植時期の遅れや初期生育が劣る場合、茎数不足による収量の低下が見られた。
- また、実証を担当した経営体は大規模経営体が多く、ほ場間の収量差が生じ、実収レベルでの目標達成が今後の課題となった。

【実証ほの収量実績】

品種名	目標収量 (kg/10a)	坪刈収量 (kg/10a)	品種名	目標収量 (kg/10a)	坪刈収量 (kg/10a)
ちほみのり	675	679	ゆきん子舞	666	627
つきあかり	646	630	あきだわら	685	665

【今後の対応】

- 栽培・技術マニュアルを活用し、品種特性に応じた栽培方法の理解促進とほ場間差を少なくする技術対策、経営体内の体制整備を支援する。